

平成19年11月12日（月）、新村公民分館において、「くまがわ・明日の川づくり報告会」が開催されました。

同報告会には、約40名の方々にお集まり頂き、球磨川水系河川整備基本方針の内容や小委員会等での審議の状況についてご報告いたしました。

質疑の際には、下記のとおりご意見等をいただきました。

参加者数※

村内	29名
村外	8名

※参加者数は記名者数

### 住民の方々から頂いた主なご意見・ご質問

#### 【河川整備基本方針の説明について】

- ・小委員会について、他の1級河川では2～3回のところを球磨川では11回開催されて、丁寧に審議されたとのことだが、国交省が原案を作り、国交省が指名した学識経験者で審議し、委員長は元河川局長である。このような委員会では、ダムを前提とした方針が決まってしまう。知事は了承できないとしており、地元の意見を無視した委員会はやり直すべき。
- ・小委員会資料で我々が出した意見書を「心情的な反対意見」として整理されたことは非常に失礼。訂正願いたい。
- ・計画策定の段階では地元の意見を十分に聴くと理解してよいか。
- ・（直接）ダムの説明がないが、ダムを推進している説明のように聞こえる。ダムを造ったら大変なことになると考えているがどうか。
- ・知事も国に対しては説明責任を果たせ、と言っている中、相良村は「施設は貸さない」などと言って、（村民を）一方的に押さえつけようとしている。私たち村民にも国交省の説明を聞く権利がある。この報告会が開催されるに至ったことを大いに歓迎する。

#### 【球磨川の治水対策について】

- ・市房ダム、荒瀬ダム、瀬戸石ダム、これを全て無くして、河川を上流から掃除すればスムーズに流れて水害がなくなると思う。
- ・S38年から3年連続水害被害に遭い、家屋の浸水だけでなく、3年連続で水田が流出した。その後、川幅が広くなり、築堤されたが、その際に、下流域住民の生命財産を守るために、ということで、この地域の農地は全部河川の中に取り込まれてしまった。人吉市内では2倍以上の川幅になるような河川改修がされてきたが、人吉から球磨川下流を考えると、そうした河川整備は今後不可能ではないかと思う。
- ・これまでの洪水調節の操作・放流を含め全ての説明が、川辺川の流域の住民の立場ではなく、洪水を全く理解していないと受け取れる内容である。洪水の状況を経験している立場から聞くと、国交省の説明は幼稚である。私は川辺川について全て理解しており、平成17、18年水害についても理解している。報告会での説明には、全く逆の見解である。
- ・球磨川のダムは全て壊して欲しい。球磨盆地にはくま川鉄道沿いに活断層があり危険である。川辺川ダムの予定地は地盤が悪く（ダムを造っても）真っ先に壊れてしまう。天然災害はやむを得ないとしても、ダムがあることで人災が起きる。
- ・荒瀬ダムの撤去は喜ばしい。市房ダムと川辺川ダムには反対。市房ダムは構造を必要最小限にして欲しい。
- ・ダムは（洪水を）調整するというが、調整は人が行うものであり、誤作動もあるかもしれない。
- ・河床の堆積した砂利を取り除けば、あるいは堤防の嵩上げで治水は十分だということで、ダム建設が必要なくなり、十分な治水効果が得られるならば、それに越したことは無いと思う。しかしながら、何が何でもダムはダメということではなく、いろいろ検討した結果、他に良い案が無いという場合には、ダムというものも一つの選択肢ではないかと思う。
- ・川内川において発生した昨年（平成18年）の洪水について、鶴田ダムの放流によって洪水が増幅されて被害に遭った、とおつ

しゃられている方の話を聞くと、今までは床下浸水ぐらいまでしかなかったのに、昨年の洪水時には一気に軒まで水が上がったということだった。その話から、ダムというのはある一定以上の雨が降ったときは非常に危険であると感じた。ダムで洪水を守るという方法は、非常に危険であると思う。

#### 【球磨川的环境について】

- ・ダムで止められて、鮎が遡上できない。ダムのせいで鮎がいなくなった。
- ・H17年の台風以降、川辺川が大変濁る。この濁りの原因がどこにあると考えているか。
- ・(ダムが原因で)きれいな水に棲む魚がいなくなり、汚い水に棲む魚が増えている。

#### 【その他】

- ・仮にダム案となった場合には、ダムの水を最大限に活用するというを農家としては考えているので、そういうこともいつも念頭に置いて欲しい。

※ ご発言をそのまま掲載するのではなく、趣旨を変えない程度にまとめさせて頂いています。

※ ご質問への回答については、アンケートで寄せられたご質問への回答と合わせて、後日 HP に掲載させていただきます。

